

国語 (現代文)

東京大学 (前期・文科) 1/4

<総括>

文科 出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間150分
理科 出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間100分

生命は秩序と無秩序とのはざまに生きる存在であるという前提に立って、科学のあり方を論じた文章。要旨は昨年よりもつかみにくかったであろう。設問数は、昨年度同様、全体で五つであった。設問の意図をしっかりとつかみ、解答の内容を絞り込む力が必要とされている。

<本文分析>

大問番号	第一問
出典 (作者)	中屋敷均「科学と非科学のはざまに」(講談社発行の雑誌、『本』2018年7月号に掲載)
頻出度合・的中等	入試で出題されるのは稀な筆者である。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・ 増加) 約3500字。昨年よりも約700字増。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・ やや難化 ・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
第一問	科学論	(一)	記述	やや難	傍線部前後の文脈に即して、「世界」と「物質」、「生命」との関係を考えて、説明する。
		(二)	記述	標準	生命の「複雑で動的な」ありようを、「分子」の偶発性や「進化」の方向性に即して説明する。
		(三)	記述	標準	傍線部の「福音」という比喻を、「科学」の営みが人類にもたらすことに即して説明する。
		(四)	記述	やや難	本文で述べられている「生命」のあり方を踏まえつつ、人間の知的な営みにとって「分からないこと」が持つ意義を説明する。
		(五)	記述	標準	五年連続で、三問の出題だった。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

様々なジャンルの評論を読み、そのテーマに関する理解を深めるとともに、文章の論理構造をしっかりと把握できるようにしたい。
書くべき要素を的確に捉え、簡潔明瞭にまとめる練習をしておこう。

国語 (古文)

東京大学 (前期・文科) 2/4

<総括>

文科 出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間150分
理科 出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間100分

例年とは異なるジャンルからの出題だったが、設問はオーソドックスなものであった。

<本文分析>

大問番号	第二問
出典 (作者)	『俳諧世説』(関更編)
頻出度合 ・的中等	稀
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・ 変化なし ・やや増加・増加) 約990字。昨年より約20字増。
難易 前年比較	難易 (易化・ やや易化 ・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
第二問 (文科)	俳諧	(一)			現代語訳 (「うるさく」の語義に注意)。 現代語訳 (「程」の語義に注意)。 現代語訳 (「あらはれ」の語義に注意)。 現代語訳 (言葉を補って訳す)。 内容説明。 内容説明。 内容説明 (第一段落に注目する)。
		ア	記述	易	
		イ	記述	易	
		カ	記述	やや易	
		(二)	記述	やや易	
第二問 (理科)	俳諧	(一)			現代語訳 (「うるさく」の語義に注意)。 現代語訳 (「程」の語義に注意)。 現代語訳 (「あらはれ」の語義に注意)。 現代語訳 (言葉を補って訳す)。 内容説明。
		ア	記述	易	
		イ	記述	易	
		オ	記述	やや易	
		(二)	記述	やや易	
(三)	記述	やや易			

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

古文を読解する上で必要な知識項目を習得するとともに、文章を一語一語丁寧に読解する訓練をしておくこと。正確な現代語訳をするために、単語・文法の学習を厳密に行っておくことが大切である。また、解答を簡潔にまとめる練習や和歌の学習も必要。

国語 (漢文)

東京大学 (前期・文科) 3/4

<総括>

文科 出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間150分
理科 出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間100分

例年通り文理共通問題であり、昨年同様散文であった。昨年に続き硬質な論説文が出題された。設問数についても昨年同様に枝問を含めて文科6題、理科5題であった。また今年も、設問に関わる部分で送り仮名の省略が昨年の1箇所から6箇所に増えた。例年通り、答案を作成する際に内容を適切にまとめるのは容易ではない。

<本文分析>

大問番号	第三問
出典 (作者)	黄宗羲『明夷待訪録』
頻出度合 ・的中等	稀。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 192字。昨年は219字 (昨年より27字減)。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
第三問 (文科)	論説	(一)			
		a	記述	やや難	語句の意味。「僅」を「わづかに」と読むことに注意する。
		d	記述	標準	語句の意味。「草野」の意味に注意する。
		e	記述	標準	語句の意味。「与」を「あづかる」と読むことに注意する。
		(二)	記述	標準	現代語訳。「不敢〜」「自」「為」に注意する。
第三問 (理科)	論説	(三)	記述	やや難	内容説明。「其本領」の指す内容を、文脈にあわせて的確に捉える。
		(四)	記述	やや難	内容説明。「亦」「之」に注意し、学校には本来「養士」「公」の二つの役割があるとしていることを踏まえる。
		(一)			
		a	記述	やや難	語句の意味。「僅」を「わづかに」と読むことに注意する。
		c	記述	標準	語句の意味。「草野」の意味に注意する。
d	記述	標準	語句の意味。「与」を「あづかる」と読むことに注意する。		
(二)	記述	標準	現代語訳。「不敢〜」「自」「為」に注意する。		
(三)	記述	やや難	内容説明。「亦」「之」に注意し、学校には本来「養士」「公」の二つの役割があるとしていることを踏まえる。		

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

本格的な漢文の読解力が要求されているので、基本句形や重要単語の習得と十分な問題演習が必要である。加えて漢文の背景となる思想や歴史などの知識も学んでおきたい。
細心の注意を払って文脈を読み取り、簡潔で過不足のない答案を作成する訓練を怠らないこと。
漢詩もたびたび出題されるので、文科、理科ともに漢詩の対策も必須である。

国語 (現代文)

東京大学 (前期・文科) 4/4

<総括>

文科 出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間150分
理科 出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間100分

近年脚光を浴びている映画監督・是枝裕和によるエッセイ。例年どおり、随筆を用いた出題である。(四)を除けば解答の方向性は決めやすいが、書くべきことをすべて解答欄内に収めようとすると、かなり苦労するのではないかと思える。

<本文分析>

大問番号	第四問 (文科のみ)
出典 (作者)	是枝裕和「ヌガー」の全文。『是枝裕和对談集 世界といまを考える2』(2016年 PHP文庫)所収。初出は『あの頃のこと — Every day as a child』(2004年 ソニー・マガジズ)。
頻出度合・的中等	この筆者の文章が入試で出題されるのは稀である。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約1790字。昨年よりも約120字減少。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
第四問	随筆	(一)	記述	標準	傍線部内容説明。「その風景」および「不安」の内容、さらに前者のありようが後者を「一層加速させた」ということを、過不足なく説明する。傍線部ウ・エを含む段落にも注目したい。
		(二)	記述	標準	傍線部理由説明。直前のように「思った」ことで、「不安」が消え、母との関係を回復したことを説明する。全ての要素を簡潔にまとめるのは困難。
		(三)	記述	標準	傍線部内容説明。「このような邂逅」の内容を押さえたうえで、それが直前の内容の「暴力的な「予行演習」だということを説明する。
		(四)	記述	やや難	傍線部理由説明。直前の「そのことに気付いた」の内容を説明するが、なぜ「こっそり」泣くのかは本文に明示されていないため、どう書くべきかの判断が難しい。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

文学者・芸術家のエッセイを含むさまざまなタイプの文章に積極的にふれ、高度な読解力を身につけること。何が問われているかがわかりにくい設問も多いため、解答の方向を正確に見定め、答えるべきことをわかりやすく簡潔な表現で自在に説明しうる表現力を養う必要がある。